

細胞の傷害・変性に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 硝子滴変性は腎臓の近位尿細管上皮細胞，肝細胞などの細胞質にムコ多糖類を主成分とする好酸性均質構造物を認める病変であり，肝細胞に現れるものを特にポリグルコサン小体という。
2. アミロイド変性はデンプンが変性した物質が細胞間や組織間隙に沈着して生じる病変であり，脾臓の赤脾髄にアミロイドが沈着した病変を特にサゴ脾と呼ぶ。
3. 異栄養性石灰沈着は壊死病巣，寄生虫の死滅虫体や加齢に伴う組織傷害などで見られ，血中カルシウム濃度に関係なく生じるのに対し，転移性石灰沈着は高カルシウム血症に続発する。
4. スフィンゴミエリン蓄積病は Gaucher 病とも呼ばれ，神経細胞やマクロファージのミトコンドリア内にスフィンゴミエリンが沈着する。本病変では多核巨細胞の出現が特徴的である。
5. リポフスチンはヘモグロビンのヘムが鉄を失ってできる褐色色素であり，肺うっ血の際に肺胞内に見られるリポフスチン貪食マクロファージは特に心臓病細胞と呼ばれる。

（正答＝3）

獣医師（家畜繁殖学）

生殖巣と副生殖器の発生に関して、次の起源のうち雄において機能的器官とならず退化するものはどれか。

1. 未分化生殖巣の皮質
2. 中腎管
3. 尿生殖洞
4. 生殖結節
5. 前庭嚢

（正答＝1）